

SMF Press

2011年 SMFアート楽座プログラム概要

アートを支える仕組みを考える —つながる Heart Art / SMF 第2ステージへ—

3.11 の大震災からまもなく半年。未だ先の見えない原発の処理を含め、瓦礫の撤去や復旧も道半ばで、多くの方々が現在も不自由な暮らしを強いられています。被災された方々に心からお悔やみ申し上げますとともに、一日も早く心安らかな日々が戻ることを祈念いたします。

9.11 が世界を大きく変えたように、今回の大震災も私たちの意識や価値観に大きな地殻変動をもたらしました。春先の自粛ムードから、立ちあがろう元気を出そうと、各地で伝統の祭りなど例年の夏の風物詩も行われるようになってきました。記憶や心の問題に深く関わるアートにもさまざまな役割が期待されています。

SMF (Saitama Muse Forum) の活動も今年で4年目を迎えました。埼玉県内の5つのミュージアムのゆるやかな連携をベースに、さまざまな分野のアーティスト関係者が集い、ミュージアムを人々や地域をつなぐキーステーションとして活用し、各地で多彩なアートプログラムを展開してきましたが、SMF は、こうした活動を積み上げながら、身近な場所でア

トを楽しみ、支援し、再創造する、芸術活動の基盤づくりをめざしています。

アート氷河期ともいわれる昨今、文化芸術振興基本法が制定された後も、芸術活動の基盤は未だ脆弱なままに放置されています。単にアートを享受するばかりでなく、経済や法制度、人的資源など芸術活動を支える仕組みにも目を向け、来るべき時代の持続可能な芸術活動の基盤づくりを共に考えていかなければなりません。

SMF の第2ステージの活動はこのような視点から「Saitama Art Platform 形成準備事業」と名付けられました。第2ステージでは2013年度を目標に、①アート関係者や市民を結びさまざまな芸術活動を支援する有効なネットワークを形成すること、②このネットワーク組織を母体に埼玉ならではの新たな創造の場づくりをめざすアートプロジェクトを実施すること、をめざしていきます。



2010年オープニングプログラム「風の記念日」
《芽出るカー》で七色の風に乗ろう

2011年度は「つながる Heart Art」と題して、これまでと同様、川口、入間、川越、さいたまなど各地で、ミュージアムを拠点に地域資源を活用する多彩なアートプログラム（概要は下図参照・詳細は順次ホームページでご案内します）を開催するとともに、「SMF アートバンク事業」では、アートバンク登録の充実、ホームページの整備充実、ラウンドテーブル2011の開催に加え、埼玉県内のアート関係者や芸術施設を対象にアンケート調査を実施する予定です。

さまざまなプログラムに参加して楽しみいただくとともに、このプロジェクトの趣旨をご理解いただき、活動へのご支援ご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。（M.N.）

つながる Heart Art

川越市立美術館

- 川越ミュージアムロード we プロジェクト
11月7日～22日

入間市博物館アリット

- みんなでつくるアートな茶まつり
—Re サイクル、Re ユース アートカフェ
10月15日・16日

大宮アート散歩

- まちなみや名物建築、まちのアートスポット
などを訪ねて 10月23日／アートマップ制作

KAPL (コシガヤアートポイント・ラボ)

- 5750 分展Ⅲ 8月20・21・27・28日

川口市立アートギャラリー・アトリア

- まち×匠×アート 10月6日～11月20日

埼玉県立近代美術館

- 5750 分展Ⅲ シンポジウム＋ワークショップ 9月17日
- MOMAS コレクションⅢ：ニューミュージアム—出会いと発見・交流と発信の基地として 10月8日～12月25日
- 音モニター・ジュワークショップ 10月22日／空間音響ライブ 12月10日・11日
- SMF アートラボ プレ展 11月12日
- ラウンドテーブル2011 11月13日
- 回遊美術館2—北浦和と西口銀座商店街アート化計画 12月3日～11日
- 方丈庵 @MOMAS—臨機応変 12月6日～11日
- MOMAS コレクションⅣ：アーティストプロジェクト「大浦一志 雲仙普賢岳との20年」 2012年1月7日～

うらわ美術館

- 多世代交流ワークショップ 11月19日／ART KIT 制作

S A I T A M A 連携美術館情報

川越市立美術館

「金沢健一展 出発点としての鉄 1982-2011」 7/30～9/25
川越市内にアトリエを構える彫刻家・金沢健一の、初期から現在に至る制作活動の軌跡を辿ります。

川口市立アートギャラリー・アトリア

開館5周年記念「川口の匠」
10/6～11/20
「ものづくりのまち・川口」の匠たち12人を美術的観点から紹介します。

入間市立博物館アリット

アリットフェスタ2011 特別展
「今・昔 絵巻 いるまタイムカプセル」
10/1～11/13
市制施行45周年記念。ヴィジュアルな資料を中心に入間の歴史を再発見します。

うらわ美術館／埼玉県立近代美術館

「生誕100年記念 瑛九展」9/10～11/6
宮崎で生まれ浦和で没した瑛九（杉田秀夫 1911-1960）の活動の全貌を紹介する、初めての大回顧展です。

今回は、うらわ美術館と埼玉県立近代美術館の初めての2館同時開催となる「瑛九展」をクロージングアップします。

瑛九は画家・版画家・写真家・批評家…など様々な顔を持っていますが、今回の展覧会はそんな瑛九の多彩な活動を8つのトピックに分けて紹介しています。各トピックは瑛九の多彩な側面を映し出す上で重要であり、2館で各4トピックずつ楽しむことが出来ます。その展示内容は、両館の特質や展示空間を加味しながら各トピックを紹介するようになっているとか。1会場見た後、余韻に浸りながらお散歩し、もう1会場へ…そして2会場を楽しんだ後にはすべてのトピックが共鳴し合い、様々な活動が同時進行していた瑛九の生涯の全貌を、感じることが出来ることでしょう。そんな芸術の秋が楽しみです。（H.O.）

（取材協力 埼玉県立近代美術館 大久保学芸員）



《マッチの軌跡》1936年 油彩
宮崎県立美術館蔵 ●



《ピーチ(花束)》1959年 油彩
宮崎県立美術館蔵 ▲

● うらわ美術館での展示作品
▲ 埼玉県立近代美術館での展示作品

横浜「新・港村」参加！ハマとつながる Heart Art

7月初旬、建設中の“村”に集まった顔ぶれを見ての第一印象は「若ッ！」でした。いえ、実際の年齢層は20～60代と幅広いのですが、辺りに充満したエネルギーがそう思わせるのです。新しい場所で新しいことが始まる予感に、誰もが胸を弾ませているようでした。

赤レンガ倉庫の隣に開かれた「新・港村」は、ヨコハマトリエンナーレ2011*1の特別連携プログラムです。主催はBankART1929*2。呼びかけに応じた

国内外のアーティストや企業、地域の活動団体などが「村民」となり、延べ床面積4,400㎡の平屋建築の中に、期間限定の小さな未来都市を築いています。会場手前の集合住宅エリアにはSMFのオフィスも。SMF常連アーティスト、松本秋則さんの竹のサウンドオブジェが竹林を飾り、時おり吹き抜ける海風とともに涼を届けてくれます。自転車漕いで割る人力かき水の美味しいこと！節電と自家発電で会期をしのぐ過酷な条件も、アートで読み換えれば面白さになるのです。

一風変わった理髪店や手作りの靴工房など、家々が密集する下町エリアでとりわけ興味をひかれたのは、アーティスト毛原大樹さんによる「最後のテレビ」。全国地デジ化をよそに村限定のアナログテレビが放送されます。電波が弱すぎて村の外には届かないそうだけど…えっ、メディアが発信機能をなくしたらどうなっちゃうの??? 本当にどうなるんでしょうねと笑顔を返す毛原さんによれば、「撮影現場にいないでも情報を享受できるのが従来のテレビなら、ここで始まるのは、視聴者が現場に来て参加する以外に成立しないテレビ。時代を逆行すると見せかけて、今までにない



▲前夜祭でのイベント。

新しいものにならざるを得ないんです。村を訪れる人との交流からコンテンツが生まれると期待して、楽しいアイデアを常に募集中です。」とのことでした。

こうして、村民とお客さんとで営むユニークな日常が、会期最終日の11月6日まで続く予定です。連携プログラムのヨコハマトリエンナーレが“作品”、黄金町パザール*3が“まち”を主役とするならば、新・港村では“人”が主役といえるでしょう。会期直前、工事は間に合うのかとハラハラしているうちに、自由な発想が次々と形をなしていく様を目にしました。建材の収集や建設の一部に横浜市民の協力があり、バスを使って東北とも交易します。場所が用途を定めるのではなく、活動の集合体が場所をつくって

いく。アートを軸に、さまざまな人や出来事、情報が交差するプラットフォームは、SMFが未来に描く夢とも重なるようです。

現在、村のイベントスケジュールのすき間を狙って、気軽に作曲体験できる音モニター・ワークショップとダンス公演を画策中！埼玉から一歩足を踏み出しどんな出会いの輪が広がるのか、とても楽しみです。(A.O.)

*1 ヨコハマトリエンナーレ2011：横浜で3年おきに開かれる現代アートの国際展覧会。4回目の今年は地域との連携プログラムを充実させ、会場のひとつをBankARTと交換して開催。

*2 BankART1929：横浜が推進する歴史的建造物を活用し、アートやその他の多様なジャンルが交易する文化芸術創造の実験プログラム。2003年からスタート。

*3 黄金町パザール：アートによるまちの再生をテーマに、2008年より活動を展開しているアートフェスティバル。



▲SMFのオフィス。

SMF 体験レポート
さいとうーが行く！

「すみだ川アートプロジェクト」に行ってきました。

東京でも有数の観光地でもある浅草。ここにあるヘンテコなオブジェがのっているビルを知っていますか？実はこのビル、アサヒビールの本社ビルなのです。

一度見たら忘れられないインパクトを放つビルの周辺、浅草寺界隈、隅田川沿いで行われていた「すみだ川アートプロジェクト」に行ってきました。以前から面白そうだなあ〜と、とっても気になっていたんです。

2009年～2089年と80年の長期にわたるプロジェクトの3年目。今年は「遊び上手な江戸の人たちにならってみようか」ということで江戸時代に狂歌師として名を馳せた大田南畝（おおたなんぽ）をお手本にすみだ川で遊びましょう。」という、いったい何が始まるんだろう？と感じてしまう不思議なテーマです。

このようなテーマのもと、6月19日から7月31日の間、古典から現代美術まで数多くのアーティスト達が思い思いに川遊びをしました。

毎度ながらのマイベースな取材のSMFプレス（笑）。SMFでも参加してい

ただいている山尾麻耶さんの「川開き」は満員で参加することはできませんでした。（すごい残念）しかし、今回は西尾美也さんの「ウキハラマキ隊ワークショップ&ツアー」に飛び入り参加させていたくことができました！！

海水浴場でよく見るあの浮き輪に、隅田川の水を入れ、その浮き輪を着けて浅草寺周辺を練り歩いて「すみだ川の水」で遊びました。

浅草寺の観光客やお店の人たちは

「え？なんで浮き輪？？あれ？水が入ってるよ！？」と目がテンの状態でしたが、こればかりはやってみないと分かりません。

実はこの浮き輪を着てご飯を食べたり、歩いたりしていると、浮き輪が当たる所がひんやりしてとても気持ち良いのです。クーラーのように冷やすぎることなく、ちょうど良い冷たさ。それに加え、水の「ちゃぶ、ちゃぶ」という音が涼しげな風を誘いました。そして、その音を聞いていると何処か別の空間にいるような感覚

になります。触覚、視覚、聴覚、とさまざまな感覚を通してすみだ川を感じ、遊ぶことができたウキハラマキ隊ワークショップ&ツアーでした。

その後、トリオ・ザ・アートの「ベネチア大作戦 in 吾妻橋」というベネチアビエンナーレについてのとても楽しい講演会に行ってきました。もちろん、壇上の方々も参加者もアサヒビールを飲みながらです。また最後に行われたじゃんけん大会で、私、優勝して豪華賞品をいただいてしまいました。（笑）

あと77回ある「すみだ川アートプロジェクト」、2089年には私も100歳近い年齢になっています。残りの77回はどんな楽しいことが起こるのか、おばあちゃんになっても是非行きたいですね。（H.S.）

編集者のつぶやき…

SMFもなでしこパワーで！Gは楽隠居(M.N.)

カラー印刷で生まれ変わりました（H.O.）

[S] さあいこう！ [M] もっと自由に [F] ファンキーに♪ (A.O.)

今年のプロジェクトも始まります。是非見にきてください。（H.S.）



▲ウキハラマキ隊ワークショップ&ツアー